



北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

園長 内田 智能

「子どもたちの“幸せ”と“笑顔”のために」

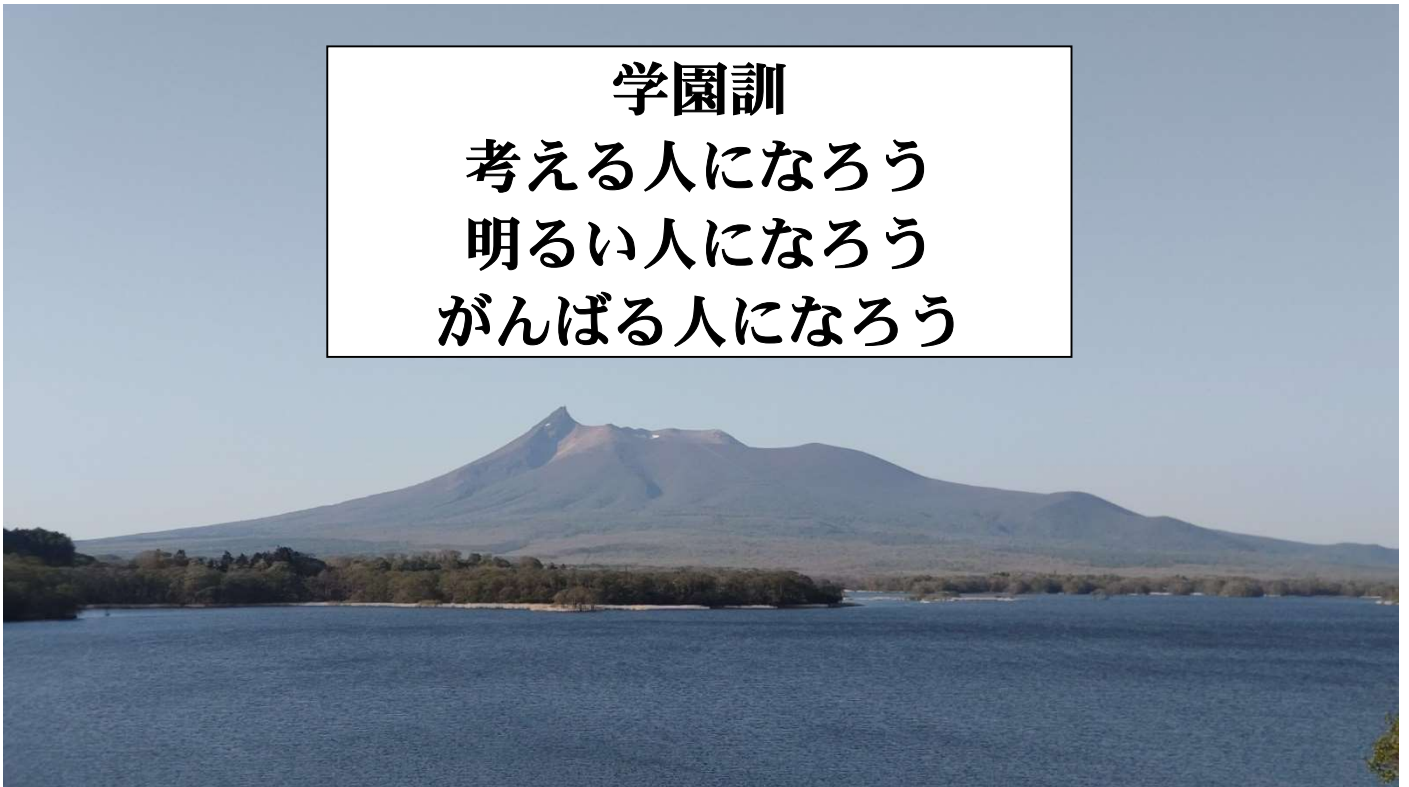
今年は春の訪れが早く、学園の敷地にも3月には福寿草やクロッカスが咲き始めました。この原稿を書いている4月中旬には、ミズバショウやスイセンが咲き始め、エゾエンゴサクが青色の可憐な花びらを風になびかせています。毎年、敷地内に花を咲かせる草花を見ていると、気持ちが落ち着きます。そして、自然には人の心を癒やす力があることを実感します。学園で暮らす子どもたちも、自覚していないかもしれませんが、きれいな草花を眺め、敷地内の山菜を頬張り、澄んだ空気を吸い、きれいな星を見上げ、学園の豊かな自然に癒やされているのではないかと思います。

学園には、規則正しい健康的な生活や地域とのつながりなど「古き良きもの」があります。この「豊かな自然」も、その一つです。当園は、今まさに「過渡期」にあり、これらの「古き良きもの」を大切にしつつ、入所している子どもたちの質の変化や社会的ニーズに対応できるように変わっていかねばならないと思っています。

新年度を迎え、気持ちを新たにして、子どもたちの“幸せ”と“笑顔”のために学園全体の支援力向上に取り組んで参りたいと考えております。今年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

学園訓

考える人になろう
明るい人になろう
がんばる人になろう



道南に聳える北海道駒ヶ岳と大沼全景

大沼学園の理念と基本方針

今年度も大沼学園の理念と基本方針に基づき、よりよい支援を展開できるよう学園運営に取り組んでまいります。

【理念】

- 児童は、健康な生活と成長の場を保障され、その権利を擁護される
- 職員は、道立施設として児童福祉を担う責務を自覚し、児童のこれまでの生育に理解と共感を持ち、生活を共にしながら支援する倫理、知識、技術を追求する
- 施設は、存立する地域との交流や関係する機関との相互の理解と連携を大切にする

【基本方針】

- 1 児童の健康な生活を保障する
- 2 児童の教育を保障する
- 3 生活、学習、作業、クラブ活動、各種行事などを通じて、児童の知・徳・体の涵養を図る
- 4 中卒児童の支援を充実させる
- 5 心理療法などの継続的な実施により、児童が抱える心理的課題の改善や内面の成長を図る
- 6 児童の権利擁護、被措置児童虐待防止について職員の認識を向上させ、環境を整備する
- 7 児童相談所など関係機関に必要とされるために、相互理解と連携に努める
- 8 地域に理解され必要とされるために、積極的な広報に努め、交流参加を図る
- 9 アフターケアを充実させ、児童の退所後を支援する

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

今年度は、当学園に3名の職員を迎え入れました。自己紹介をさせていただきます。

職・氏名	前所属
自立支援課 本館主査 鍵谷 敦（かぎや あつし）	室蘭児童相談所
福祉専門員 谷島 翔也（たにしま しょうや）	新採用
福祉指導員 工藤 大輝（くどう だいき）	新採用

「よろしくお願ひいたします。」 自立生活支援主査 鍵谷 敦

この度、室蘭児童相談所から異動して参りました鍵谷（かぎや）と申します。

大沼学園での勤務は初めてですが、以前は別の児童自立支援施設での勤務経験もありました。「初めて」の感覚と、「久しぶり」の感覚が入り交じっていますが、現在、自分の中の情報や考えをアップデートしているところです。

大沼学園で過ごす子どもたちと一緒に過ごしながら、小さな発見や成長を喜び、ともに成長できるように、歩んでいけたらと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

「33歳。ピカピカの1年生」 福祉専門員 谷島 翔也

十数年の社会人経験を経て、この度縁があり大沼学園への配属となりました。

前職では障がい者支援施設の生活支援員として勤務しており、児童自立支援施設の配属が決まった際には職場のイメージが湧かなかったのですが、授業や野球、生活寮での触れ合いを通して子どもたちが笑顔で過ごす様子を見てからは共に学び、体を動かすことの大切さを日々感じております。

過去の経験からか、新たなことや未知への挑戦に戸惑いを感じる子どもたちが学園には多くいます。少しでも前向きになれるように私自身が今までの人生で起こした失敗なども含め、教え伝えていけたらと考えています。

北海道職員1年生でありわからないことだらけの毎日ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

「同じ目線で話すこと」 福祉指導員 工藤 大輝

このたび、新規採用として大沼学園で勤務することになりました。大学で心理学を学び、大学での講義や参加していたボランティアを通して困っている子どもたちの力になりたいと思い、相談役としての心理ではなく実際にふれあう福祉の道を志しました。大人の立場で上から教えるのではなく、子どもたちと同じ目線で一緒に学び兄のような立場で背中を押せる支援をできたらいいなと思っています。まだまだわからないことだらけで未熟ではありますが、よろしくお願ひいたします。

新しく七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校に着任された先生

今年度は、鈴蘭谷分校に5名の先生が着任されました。自己紹介をさせていただきます。

教頭先生 滝花 晋 先生 (たきはな すすむ)
教 諭 竹下 正彦 先生 (たけした まさひこ)
教 諭 若佐 英子 先生 (わかさ ふさこ)
教 諭 三河 正志 先生 (みかわ まさし)
教 諭 西村 将志 先生 (にしむら まさゆき)

滝花 晋 教頭先生

この度、函館市立本通中学校から教頭として異動して参りました。この自然に囲まれた学校で、皆さんと関わっていけるのを楽しみにしています。まだまだわからないことがたくさんありますが、早く慣れて鈴蘭谷分校の皆さんがいきいきと活動できる環境づくりに貢献できたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

竹下 正彦 先生

大沼が好きで鳥の写真を撮ったり、自転車で走ったりとよく来ています。その大沼にある鈴蘭谷分校で児童・生徒の皆さんとともに学ぶ機会を得られてとてもうれしく思っています。大沼学園の皆様とも協力し合いながら、新たな気持ちで頑張っていきたいと考えています。よろしくお祈いします。

若佐 英子 先生

自然に囲まれ、豊かな環境に恵まれた、鈴蘭谷分校に勤務でき、うれしく思います。児童、生徒の皆さんと、日々、楽しく、充実した時間を過ごしていければと思っています。まだまだ、わからないこと、はじめてのことばかりでチャレンジの毎日です。みなさんのご協力をいただきながら頑張っていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお祈いいたします。

三河 正志 先生

これまで、鈴蘭谷分校の校舎を車で通過するとき、「正面に大沼を見渡せる素敵なロケーション」「校舎のすぐ裏にある自然豊かな裏山」をいつも興味深く感じていました。早く学校に慣れ、みなさんと一緒に活動できるのがとても楽しみです。中学校の理科の授業を担当することになります。どうぞよろしくお祈いいたします。

西村 将志 先生

この度、鈴蘭谷分校に勤務することになりました。これまでは、海沿いの街で働くことが多かったのですが、とても新鮮な感じがしています。自然に囲まれた豊かな環境の中で、児童、生徒の皆さんと元気に過ごしていきたいと思っています。わからないことばかりですが、みなさんのご協力のもと頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお祈いいたします。

昨年度行事報告

令和4年度 卒業生激励会

専門主任 田中 伸章

令和4年度の卒業生激励会も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等を鑑み、規模を縮小して3月20日に開催しました。今年は町内の中華料理屋さん、華やかで美味しいお弁当をご用意いただき、会食は寮ごとに行いました。新たな門出を職員と児童で応援、全員で会を盛り上げて楽しみました。小学生2名、中学生3名の新たな門出を祝うために、今年も芝蘭寮はキレッキレのダンス、蛍雪寮はちょっぴり哀愁のお笑いネタ、晚翠寮はコミカルな劇を披露しました。児童が普段とは違う一面を見せ、それぞれの持ち味を發揮して頑張りました。また、内田園長や大橋校長、下級生からの激励の言葉や、函館心の里親会様から記念品の贈呈などもあり、卒業生も新たな門出に向けて、気持ちのこもった立派な挨拶をしていました。子どもたちの大きく成長した姿に、大きな喜びを感じております。激励会終了後に行われた退園式では、卒業生とのお別れに気持ちが沈んだのか、その場に座り込んでしまう下級生の姿もありました。卒業生は学園生活で得たことを糧に、さらなる成長を目指し、下級生も卒業生の立派な姿を自身の成長に活かしてほしいと願います。



令和4年度 卒業証書授与式

福祉専門員 渡部 準矢

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校との共催のもと、3月22日に卒業証書授与式を実施しました。今年は小学生2名、中学生3名の新たな門出を見届けることとなりました。道南地域の3月として考えると、例年よりも暖かい陽気が続き、春らしさを感じられる中で、式典を実施できたことを喜ばしく感じます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も卒業生の保護者様や児童相談所の関係者様、卒業生が在籍する学校の校長先生までの招待となりました。しかし、世間では規制が徐々に緩まりつつある情勢ですので、来年度は招待範囲を広げ、一人でも多くの方に卒業生の門出を直接お祝いいただけることを期待しております。



(5名の門出を祝福しました)

入園当初はどこか不安げな表情をしていることが多かった今回の卒業生達ではありますが、式典の中では、晴れやかかつ誇らしげな表情をしていたことが大変印象的でした。これから、人生の様々な節目を越えていく中で、楽しいことも辛いこともあるかとは思いますが、どんなことがあっても、それぞれの道でくじけず元気に頑張っていって欲しいと思います。

最後にはなりますが、ご多忙の中、遠方からお越しくださった保護者様や関係機関の皆様、祝辞等を送ってくださった関係者の皆様、企画準備や実施にご協力いただいた職員の皆様、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

各 寮 紹 介 ・ 今 年 度 の 児 童 決 意

芝蘭寮

寮長 斉藤 利昭

昨年度は3名の入所。3月末に2名の退園。今年度は4名のスタートです。大沼学園も以前のような「指導性」の厳しさが強かった時代に比べると、最近は子どもたちに出来るだけ負担や無理のない緩やか「支援性」に移行しつつあると感じます。しかし、ここでの暮らしは私が着任した20年前と大きく変わっていません。それは、共に暮らす私たち夫婦が変わっていないからです。寮で関わる行事、作業、制作物など、昔の先輩職員からも「やるからには少しでも良い物を作り上げる」との格言から、それこそ寮で毎年制作している版画カレンダーも、どこの寮も夜遅くまで煌々と灯りがついていて、取り組んできた時代もありました。そんな厳しい環境の中で暮らすからこそ、子どもたちも逞しく成長してきた経過があります。最近の子どもたちは、厳しさや困難にとっても弱いと感じます。学園や寮の生活が少しでも辛いと感じると「他（寮や施設）に行きたいです」とすぐに厳しさから逃げようとする子が多くなったと感じております。そのため、寮生活を通して厳しいことや辛いことを少しでも乗り越えることが出来るようにサポートすることが大事な事なのかなと思います。退園生たちがよく口にする言葉ですが、「ここにいたときは早く出たいと思ってました。でも、ここを出たらこの生活以上に厳しかったです」と。ここでの暮らしの中で少しでも強く、そして逞しく育てて欲しいと願っています。

今年度も共に暮らす子どもたちに支えられながら、保護者や関係機関の方々から少しでも信頼されるような寮運営をしていけるよう、心掛けていく所存です。よろしくお願い致します。

小6 ショウマ

自分の今年の目標は、どんな場面でも落ち着いて行動する事です。

自分は特に楽しい事があるときに、落ちつきのなさが、あらわれてしまう。例えば、クラブ、残留行事など、色々な場面で落ちつきのなさが出ていると思うので、この目標にしました。完全にはやりきれないと思いますが、落ち着きのある行動をしていきたいです。

中2 ショウタ

まもなく1年がたつので年上らしく生活をする事。自分の家に帰る事です。

中2 ソラ

僕の今年の目標は、2つあります。

まず1つ目は、野球で2番を打つ事です。勝利のために活躍したいです。

2つ目は、日頃の生活で周りの人への手助けや気づいた事の手伝いをしたいです。

日々の学園生活に緊張と2つの目標を持って生活していきたいです。

中3 ハルト

僕の今年の目標は、ずっといっていることですが、「早く退園するために自分の課題にしっかりと目を向ける」です。半年たって、焦りがでてきて前はどこか逃げていたと思うので今年は、ちゃんと目を向けてしっかり受けとめていきたいです。

昨年度末に中3生1名の巣立ちを見送り、今年度の蛍雪寮は児童3名でのスタートとなりました。児童のメンバーは昨年度の4月から変わっておらず、寮職員も1名のみの変更。ぱっと見た形は「現状維持」といったところです。

さて、寮の人員が現状維持とはいえ、寮生活が波のない穏やかなものであるはずがありません。10代前半、思春期真っ盛りの子もたちは、進んだり戻ったりを繰り返す、文字通り「不安定」な毎日を送っています。「昨日できたことが今日はできず、昨日できなかったことが今日はできる。そして明日は…」と、まるで時間が滞留してグルグルと回っているようです。「子どもの成長は直線的でなく、上っては下り、行きつ戻りつを繰り返し円の形を辿る」とは、以前お世話になった上司の言葉ですが、なるほど、言い得て妙だと痛感する毎日です。そして当然、子どもの不安定さは別の子どもにも伝染し、例外なく私たち職員にも反発という形で牙をむいてくるのです。

自分にその牙を突きつけられたあたりで、ふと頭に浮かぶことがあります。「不安定って悪いことなのか?」。思えば私にも10代の時分がありました。恥ずかしながら自分も周りも、それなりに「不安定」な毎日をごしていました。些細なことで苛立ち、親や教師に反抗し、都合の悪いことから目を逸らして生きている時間が、確かにあの頃の私にはあったのです。自分の意思とは無関係に成長していく身体と心が、その「不安定」の根幹にあったことを、大人になった今ようやく、なんとなく、理解できます。そう考えると、子どもたちの「不安定さ」や「ぎこちなさ」、「地に足のつかない感じ」は、彼らが少しずつ大人になろうとしているサインなのかもしれません。

私たち蛍雪寮職員は、今年もそんな「大人予備軍」たちの不安定さに向き合い、彼らが幸せな未来にたどり着けるよう支援していく所存です。今年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

小5 コウガ

目標は苦手なこと、やなこと、やりたくないことを乗り越え、苦手な人とも関わって乗り越えることをしたら楽しいことが待っています。漢字二文字で表したら僕の目標は「苦楽」です。がんばります。

中1 ハヤト

学校で頑張りたい事は二つあります。一つ目は挨拶をきちんとする。いわれずにきちんと挨拶をする。二つ目は苦手な勉強を頑張る。

寮で頑張る事は四つあります。一つ目は人のアドバイスを素直にきく。二つ目は先生の指示をよくきく。三つ目はやるべき事に集中する。四つ目はイライラしたらクールダウンを頑張る。

ここに書いたことを目標にして、リッチな男になりたいです。

中3 リクト

僕は今年、受験生なので、今までより、勉強に力を入れたいと思います。この時期だけじゃなく、受験をきっかけに、毎日の復習や、予習を心掛けたいと思います。目標は受験合格。高校へ行ってやりたいことが、沢山あるので、そのためにも文武両道をしっかりやれたらと思います。

中3 キョウスケ

今年の中3なんで受験があります。自分の行きたい高校に行けるように日頃に復習をします。寮生活などで、中心になれるように頑張ります。野球クラブの目標は全国に行けるように日頃の野球での練習をしっかりとします。僕の今年のポジションはショートです。ショートとしての役割をちゃんとやりたいです。

「忙中有閑」

令和5年度の晩翠寮は3人で始まりましたが、思えば昨年度もスタートは同じでした。例年ここから寮の新体制を安定させるために試行錯誤する日々が始まります。大抵は新年度とともに新入生の打診が次々飛び込んでくるので、安定して寮が回るように急ぐのは待ったなしです。

交替制晩翠寮も5年目に入りましたが、運営がスムーズになったかと言えばそうではなく、常に失敗と見直しの連続です。そもそも寮の運営というものにテンプレートなどなく、その時々の子どもたちの構成や個々の特性などを考えてカスタマイズし、アップデートしていくことが必要不可欠です。あるとき上手くいったやり方が、ずっと上手くいく訳でもなく、結果、「試行」と「錯誤」の繰り返しで忙しく毎日が過ぎていきます。

最近入園する子どもたちは、発達特性によりあらかじめルールや予定を明確に提示しておく必要がある、と分かっているにもかかわらず、ルールで雁字搦めにはしたくないという気持ちもあり、さじ加減が難しいところです。寮職員の構成も毎年のように変わる中、専門性や継続性を持ったやり方を伝え、実行していくことに困難を感じることも多いです。

そんな中、寮舎で一息ついて、畑など眺めたり、子どもたちが庭でキャッチボールしていたり、グラウンドで野球部が活動している様子などを観る瞬間など、短くて些細な場面に幸福を感じる時、この仕事をしていて良かったと思えるのです。

今後とも、学園の取り組みにご理解とご支援をよろしくお願い致します。

中1 ユウ

今年の意気込みは素直に聞くのと誰かに言われなくても自分で動くとしつこく聞かないです。もう一つ、誰かに言われずに動くことです。これを頑張って、退園を目指していきます。毎日課題に向き合っているととても良い人になりたいです。すくなくとも優しい人にはなりたいです。

中2 ソラ

今年の意気込みは、退園することです。そのためには、今ある課題の人の事を気にしすぎて、あーだこーだ言うてしまう所を直さなければいけません。なので今後は、退園だけのためではなく、この先人と関わっていく中で大切なスキルの一つとして頭の中に入れたおいてしっかりとそのスキルを身につけて、目標の退園により近づけたら良いと考えています。クラブと寮生活の両立が出来るように頑張っていこうと思います。

中3 コタロウ

今年は学園の中でエースを目指したいと思います。そしてエースのほかにも乃木坂愛は誰にも負けないようにしていきたいですし、新しいことにも挑戦する心を持っていきたいです。ということで今年の意気込みは、「何事も負けない心をもつ」です。

そして家に帰って、いっぱい活躍したいです。将来の夢に向かって一生懸命頑張ることです。

クラブ紹介

野球クラブ

児童自立支援専門員 成田 健悟

大沼の雪解けは例年よりも早く、3月下旬にはグラウンドを使用しての練習が始まりました。冬期間は室内での練習が主であったため、広いグラウンドで楽しそうに白球を追いかける姿を見ると、またこの季節が始まったなと感じます。野球が出来ることの嬉しさ、野球指導の難しさ、少しのプレッシャーを感じながら、日々の練習を児童達と取り組んでいます。

野球の技術論は時代とともに変化しています。昔、バッティングではバットを上から下にダウンスイングをすることが基本だと教えられてきました。しかし現在ではバットは地面と平行、もしくは下から上にスイングするアッパースイングが基本となりつつあります。

大沼学園でも児童の支援方法についてはめまぐるしい勢いでの変化が求められています。野球部の支援でも、時代に合わせた新たな支援方法を取り入れていくことを意識しながら取り組んでいます。しかし今も昔も支援方法は変われど、「勝利に向かって一生懸命取り組むこと」の重要さは変わることがないものです。このことを日々の練習、大会のなかで児童達に伝えていきたいと思っております。

まずは6月下旬に開催される東北・北海道地区少年野球大会での優勝を目指して頑張っていきたいと思えます。昨年度は準優勝という結果に終わり、児童、職員ともに雪辱に燃えています。今年度も大沼学園野球部へ応援よろしくお願ひします。



小学生クラブ

専門主任 田中 伸章

今年度の小学生クラブは、新年度に進級した新6年生1名、4月中旬に入園した新5年生1名を加え、計2名でスタートしています。学園内の散策やスポーツなど体を動かす活動から工作や調理、映画鑑賞など文化的な活動まで、1年を通して様々な活動に取り組んでまいります。それぞれ好みの全く違う子らが、同じように楽しめる活動はあまり多くありません。また1つのことに集中が持続しない子や、一旦こだわり始めたとなかなか止められない子など、相反するような発達特性の子らが一緒に活動する難しさについては、今更述べるまでもないでしょう。昨年度の小中学生クラブは少人数ということもあり、例年に比べて子ども同士のトラブルは少なかったように感じます。今年度も同様に少人数での活動となりますが、少なからずトラブルや衝突は起きることでしょう。子どもらには自分だけでなくみんなで楽しむことを目標に、そのための約束事として「ごめんなさい」と「ありがとう」を積極的に言えるようがんばってもらいます。他者視点に立つことが難しい子らは、些細なことでトラブルに発展してしまいます。自分の気持ちを上手に伝えられず癪癪を起すこともしばしば。失敗したことで感情を抑えられず、自身の気持ちすら分からなくなってしまうこともあります。小学生クラブは安心して多くの失敗を繰り返しながら、失敗を成長に繋げられる場です。最初から子どもらが安心できる場と認識することは難しいと思いますが、職員の日常的な声かけを通して、子どもが安心して失敗できるような雰囲気を作り、子どもらの成長に寄り添いたいと思ひます。



新年度行事報告及び主な今年度行事予定

湖畔清掃

児童自立支援専門員 中田 太一

今年の湖畔清掃は、中3生が大沼公園駅前の花壇整備、そのほかの子どもが湖畔清掃という形で実施しました。天候には恵まれたものの風が強く、寒さと戦いながらの作業となりました。厳しい環境でしたが、ちょうど大沼公園で開催されていた車のイベントで普段見ないような車が多数走っており、子どもたちもそれを見て盛り上がっていました。映画「ワイルドスピード」の中に閉じ込められたかのように感じ、もしかしたら子どもたちは車を見ながら、なんとか作業のモチベーションを保っていたのかもしれませんが。



花壇整備では職員が印をつけたところに丁寧に移植してくれました。シビックやGT-Rなどに気を取られる場面はありましたが、手を止めず取り組むことができました。今年は約200株ほどのパンジーを1つ1つ移植していきました。観光客の目にとまれば嬉しいですね。

湖畔清掃では、約4kmほどの湖畔を歩きながらゴミ拾いをしました。子どもの中には、道路脇のみならず、ちょっとした山に登ってまでゴミを拾っていました。一生懸命に取り組みすぎて少し時間をオーバーしてしまいましたが、子どもたちには良い経験になったと思います。

帰寮後は、七飯大沼国際観光コンベンション協会からいただいたおにぎりや、学園の栄養士さんに無茶振りをして出していたいただいたジンギスカンで昼食を摂りました。非常に寒い中でしたが、炭をおこして食べるお肉は格別なことでしょう。

今回の行事は、初参加の子どももいれば2回目の子どももいます。当職は3年目にしてようやく初参加のこの行事ですが、とても貴重な体験ができたと感じております。自分たちの住む環境以外の人のための環境整備の大事さについて、どんどん学んでいって欲しいと願います。

主な今年度行事予定		10月	マラソン大会
5月	運動会	11月	学園祭
6月	登山遠足 東北地区少年野球大会	12月	クリスマス会 一時帰省
7月	中学生宿泊研修 キャンプ	1月	百人一首大会 スキー学習
8月	一時帰省 第74回全日本少年野球大会	2月	スキー学習 大沼雪と氷の祭典
9月	中学生修学旅行 小学生修学旅行 沼地区野球大会	3月	卒業生激励会 卒業証書授与式

(※諸事情により変更の可能性あります)

学 園 の 動 向

令和4年11月～令和5年3月

11月

- 5日 学園祭
- 9日 運営会議
- 10日 係長主査会議 支援会議
- 14日 児童Y一時保護(～21日 帯広児童相談所)
- 15日 函館児童相談所、被措置児童虐待に係る面接調査
- 16日 職員会議
- 17日 函館家庭裁判所視察見学
令和4年度東北北海道児童自立支援施設協議会職員研修会参加(～18日)
- 21日 新篠津高等養護学校見学 避難訓練
- 22日 子ども子育て支援課・函館児童相談所、被措置児童虐待に係わる面接調査(～25日)
- 28日 秋田県大潟村民生児童委員施設見学
- 29日 室蘭児童相談所来園(面接指導)
国際ソロプチムスト函館来園
(11月 入所 0名 退所 0名)

12月

- 1日 新型コロナウイルス感染児童療養のため芳泉寮開設(～12日)
- 7日 児童D退園
- 14日 支援会議 給食会議
- 16日 職員会議
- 19日 避難訓練
- 20日 餅つき大会
- 21日 児童Y一時保護(～27日 帯広児童相談所)
七飯更生保護女性会来園
- 22日 基幹的職員研修(オンライン)
- 27日 冬季一時帰省開始(～1月6日)
- 28日 残留行事(温泉入浴・外食)
- 30日 残留行事(映画)
- 31日 残留行事(温泉入浴)
(12月 入所 0名 退所 1名)

1月

- 2日 残留行事(温泉入浴)
- 3日 残留行事(スキー遠足 グリーンピア)
- 5日 残留行事(スキー遠足 スノーパーク)
- 4日 理髪
- 11日 百人一首(団体戦・個人戦)
- 12日 百人一首(個人戦)
- 15日 理髪
- 17日 児童R許可外泊(～19日)
- 18日 医診 給食会議
- 19日 職員会議
- 21日 温泉入浴
- 23日 函館児童相談所、面接指導のため来園
- 25日 支援会議
- 26日 児童M高等養護学校受験のため一時保護(～27日 中央児童相談所)
- 27日 スキー学習(グリーンピア)
- 29日 温泉入浴
- 30日 避難訓練
- 31日 令和4年度業務監査
(1月 入所 0名 退所 0名)

2月

- 1日 医診 寮担会議
- 2日 スキー学習(グリーンピア)
- 3日 係長主査会議
- 6日 大沼雪と氷の祭典雪像作り開始～10日
- 8日 令和4年度 定期監査
名寄市立大学生保育実習開始～18日
- 11日 大沼雪と氷の祭典見学(芝蘭寮・晩翠寮)
- 12日 大沼雪と氷の祭典見学(蛭雪寮)
- 13日 内科検診
児童Y一時保護(～16日 帯広児童相談所)
- 14日 運営会議
- 15日 職員会議 給食会議
- 16日 児童A一時保護(～19日 室蘭児童相談所)
- 17日 スキー学習(スノーパーク)
- 22日 支援会議
児童M高等養護学校説明会参加
- 23日 招待行事(大沼求道遊船)
- 24日 函館心の里親会来園
- 27日 研修:性の講話会
- 28日 子どもの権利擁護技術研修
相互受け入れ研修(中央児童相談所)
児童Y高校受験のため一時保護(～3月3日 帯広児童相談所)
(2月 入所 0名 退所 0名)

3月

- 1日 児童H高校受験のため一時保護(～6日 旭川児童相談所)
児童A高校受験のため許可外泊(～3日)
- 5日 スキー遠足(スノーパーク)
外食・温泉入浴
- 6日 係長主査会議
- 7日 児童A許可外出
- 8日 職員会議
- 9日 支援会議
- 10日 避難訓練
苦情解決第三者委員による児童面接
- 13日 内科検診
- 15日 医診 給食会議
室蘭児童相談所来園(面接指導)
- 20日 卒業生激励会 退園式
室蘭児童相談所来園(児童Aを一時保護)
- 21日 温泉入浴
- 22日 卒業証書授与式 児童A・M退園
- 23日 職員会議
室蘭児童相談所苦小牧分室来園(面接調査)
- 24日 修了式・離任式(鈴蘭谷分校・学園)
苦情解決第三者委員による児童面接
- 27日 児童H退園
- 28日 児童R退園
- 29日 児童M退園
- 30日 買い物訓練(晩翠寮)
(3月 入所 0名 退所 4名)

お世話になりました

大沼学園

退職

(令和5年3月31日付)

高間 拓希

異動

(令和5年4月1日付)

鈴木 大介 室蘭児童相談所

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭大分校を離退任された先生

深山 裕一 教頭先生

船越 健治 先生

古川 哲司 先生

松坂 稔巳 先生

小林 義治 先生

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(10月1日～3月31日)

(株)函館フーズプランニング 様 国際ソロプチミスト函館 様 七飯更生保護女性会 様
ゲーム同好会「s k t豆腐屋」北斗支部 様 函館心の里親会 様
澄マサノ 様 佐藤 様 (八雲町) 三浦綾子記念文学館 様
赤坂秀彦 様 (順不同)

編集後記

3月に中学生3名が道内各地へ巣立っていきました。学園生活で成長した姿を新しい生活に生かしてくれるのを期待しています。そして新年度を迎え、児童が進級とともに、気を引き締めた表情で登校しています。今年も雪解けも早く、4月当初からグラウンドで元気な声が響いています。

新型コロナウイルスの感染症が2類から5類へ移行する中で、感染対策をしながら、今まで行っていた恒例行事を予定通り開催できることを願っています。

児童と日常をともにしながら、職員も共に活動を通して、お互いに切磋琢磨して参ります。

令和5年度湖畔第一号をご高覧いただき、ありがとうございました。

専門主任 筑間 健太郎